

会 議 概 要 報 告

1. 会議の名称	令和5年度第1回潟上市自殺対策計画検討委員会
2. 開催日時・場所	令和5年11月9日
3. 委員等の人数	12人
4. 出席委員等の人数	8人
5. 議題	<p>(1) 潟上市健康づくり計画に係る市民アンケート調査の結果について</p> <p>(2) 潟上市自殺対策計画（第1期）最終評価及び次期計画の方向性について</p> <p>(3) 今後のスケジュールについて</p>
6. 傍聴者の数	0人
7. 会議資料の名称	<p>資料1 潟上市自殺対策計画第2期（素案）</p> <p>資料2 評価指標の見直しについて</p> <p>資料3 各施策に係る保健事業一覧</p> <p>資料4 今後のスケジュールについて</p>
8. 会議の概要	<p><会議要旨></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる相談機関の周知をすることが大事。 ・高齢者の孤立予防のため、サロン活動は重要。 ・悩みを相談された側の対応や態度についての教育も必要ではないか。 <p><委員からの主な質問や意見></p> <p>(1) 市民アンケート調査の結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こころはればれゲートキーパー」の認知度が低いことに驚いた。気軽に相談できる相談機関の周知徹底することが大事だと思うため、周知の方法について検討してほしい。 <p>(2) 潟上市自殺対策計画（第1期）の最終評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自殺は予測がつかない場合がある。相談者は必ずしも解決策を求めて相談しているわけではなく、傾聴することは大事と考える。 ・児童生徒のSOSの出し方に関する教育に付随して、潟上市内の小・中学生を対象にした救命講習を受けてもらいたい。 ・ストレスの対処法についての設問で、小・中学生、高校生の対処法が分からないという回答が多い。子どもたちの年代から、相談する機関が分かるように周知することが今後に繋がると思う。 ・一般的には、悩みを相談できずに抱え込んでしまう傾向がある。相談を受ける側もストレスをあまり溜め込まないように周囲と連携をすることが重要と考える。 ・親や親友であっても、解決策を示せるわけではなく、励ましたつ

	<p>もりで最悪の事態が起きることもある。悩みを相談される側の対処法について教育が必要と考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・ストレスの対処法について、スポーツをすることによって前向きな気分になるが、その気力すらも湧かない人もいる。「じっと耐える」「ストレス解消法を知らない」と答えた人へのケアも検討してほしい。
9. その他	